

桐生市子ども基金の活用に関する要望書

桐生市議会教育民生委員会

『 子どもの未来のために、今できること 』

子どもは、「桐生市の宝」であり、子育ては、「未来の桐生市を担う人材を育てること」であるといえる。

これまで、教育民生委員会では、子どもの未来のために議会として何ができるか、協議を進めてきたが、平成30年桐生市議会第4回定例会において、「桐生市子ども基金条例」を本委員会で提出し、全会一致で可決するところとなった。

子ども基金は、「子どもの未来を育ぶ事業」に要する経費の財源に充てるために、設置したものであり、桐生市において、この基金を積極的に活用することを要望するものである。

この要望書は、桐生市が「子どもの未来を育ぶ事業」を実施するにあたって参考となるよう、委員から挙げられた意見をまとめたものであるが、施策を展開するにあたっては、子どもの『人格・意見』を尊重し、『個性』を活かして、その持てる『能力』を最大限に発揮できるようにするという視点に立つことを求めるものである。

子ども・子育ての問題の解決のために、市の組織内においては部局の枠にとらわれず横断的に、そして家庭・学校・地域などを含めて、相互に連携し合い、地域社会全体で子どもを育ていけるように重ねて求めるものである。

平成30年12月20日

教育民生委員会

委員長 北川 久人 副委員長 工藤 英人

委員 関口 直久 委員 辻 正男

委員 新井 達夫 委員 周東 照二

委員 小滝 芳江

★・・・子どもの個性を生かす取組(重点項目)

◇・・・新規取組

◎・・・既存事業の拡充

1 かなえる(企画・提案)

「こんな桐生市にしたい」、「住み続けたいと思うまちにするには」などの子どもが描く未来の桐生市、また子どもの「将来の夢」をかなえるため、市として実際のまちづくりや夢の実現のための活動をサポートする。

★ 子どもの夢をかなえる事業

子どもからかなえたい夢を募集し、行政・地域・民間の大人たちも協力して実現する。(狭山市:夢をかなえるプロジェクト)

★ 子どもに任せるまちづくり

子どもに主体を持たせ、子どもたちの自発的な活動を支援し、本物のまちづくりに参画させる。(高知市:子どもまちづくり基金助成金事業「こうちこどもファンド」)

★ スポーツを通じて子どもたちの夢を育ぶ事業

(枚方市:トップアスリートとのふれあい、講演会など)

2 支える（助成・支援）

子どもの健やかな成長を支える個人やNPO法人、各種団体等の活動への支援を行う。

◎ 地域の子育て支援団体等の活動に対する財政的支援

市民グループ等が自ら主体的、自主的に企画し、実践していく活動で、継続的に展開されるものに助成する。

（高崎市：こども基金助成事業、盛岡市：盛岡市子ども・子育て支援事業）

◇ カリビアンビーチやスケートセンターなどのスポーツ施設利用料補助

◇ 大川美術館「FREE DAY」（土曜日は、学生無料）スポンサー募集

（恵那市：中山道広重美術館・18歳以下の方の観覧料を通年無料、ユニクロ：ニューヨーク近代美術館（MoMA）とのスポンサー契約を更新・毎週金曜日午後4時から午後8時までのMoMA入館料を無料）

◎ 学生インターン助成事業支援

若者とNPO・市民活動団体・ボランティア団体へ、助成を行う。

◎ 子ども学習支援に対する助成

◎ 育成会活動の拡大支援について

◎ 少子化に関する施策・活動の支援

◎ 子ども食堂の運営支援及び新規設立支援

3 学 ぶ（教育・学習）

学校・家庭・地域社会が連携し、様々な角度から心身ともに健康で人間性豊かな子どもを育成する。

★ 未来創生塾、サイエンスドクター等の拡充

群馬大学理工学部と連携した、本市独自の教育プログラムの更なる拡充を図る。

◎ 本を利用した教育を充実させることについて

◎ 放課後子供教室の拡充

各種交流事業、学習・体験事業等の内容充実を図る。

◇ 校内放送(昼食時)を活用したプログラムの提供

子どもたちに見方や考え方のヒントとなるようなプログラムを提供し、自分自身の将来や郷土のことなどを考える機会を創出するため、市内小・中学校全校を対象とし、昼食時の校内放送に著名人に出演を依頼し、地元のことやその職業を目指したきっかけ、現況などを話していただく。

◎ 家庭における食育活動の推進

各家庭で参考にさせていただきたい給食の献立や必要な栄養などを紹介する冊子を作成し、本書が各家庭で活用され、子ども達の健やかな成長の一助となることを期待する。

◎ 地域の歴史・伝統文化の伝承

八木節のお囃子等、上毛かるた大会等の活動を掘り起こし、後押し。

◎ 海外派遣事業(コロンバス・ビエラ)の拡大

◎ 外国語教育プログラム(黒保根ほか)

◎ 郷土の教育を深める事業

4 整える（環境整備）

どの子どもも同じ教育が受けられるよう、市として可能な限りハード面を整えることにより、子どもが学ぶための学習環境をつくる。

◎ ICT教育の充実(校内LANの整備等)

◎ 学校用備品の充実

教材教具器具備品(学校配当分)の購入支援、新学習指導要領の改訂(4年に一度)に伴う備品購入 等

◎ 子どもの遊び場の充実

公園等の遊具を充実させ、親子で楽しめる遊び場を増やす。

★ 移動図書館の復活

◇ 子ども「夢」文庫の設置

各小中学校にコーナーを設置。地元の方からの本の寄附(古本も可)も受け入れながら、基金を財源にして本を購入。

◎ ブックスタート事業の充実

◎ 屋内遊戯場、子育て支援センターの管理及び遊具等の購入

◎ 桐生が岡動物園・桐生が岡遊園地の運営経費

5 行う（募集・開催・活動）

一人ではなく、様々な活動や体験を通じて共に学び、同じ悩みを抱える仲間と情報を共有することで、目には見えない心のケア活動にもしっかり取り組む。

- ◎ 子どもを対象とした音楽イベント開催（周年事業等で実施）
- ◎ 産後うつ予防や子育てに必要な知識等を習得するプログラムを実施
（NPプログラム、ペアレントプログラム等）
- ◎ 子どもの発達支援に関する講演会の開催
- ◎ 児童虐待防止に関する広報活動

6 続ける（基金の運用・調査・研究）

子どもの明るく輝いた未来のため、また寄附者の趣意に沿った事業を継続して取り組めるように基金を運用する。

- ◇ 運用について、マッチングギフト制度の導入（寄附金と同額を市が積立てする）
（東近江市：子ども未来夢基金、東松山市：子ども安心安全基金～虹色ファンド）
- ◇ ふるさと納税としても寄附金を受け入れる。